

りょうぜん天蚕の会だより

【第 18 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【 当会の活動方針 】 霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度18年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と設立以来、伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

令和3年度の繭の収穫は山付け5,000粒の実施に対し約2,500個の50%でした。館ハウスの2年度改植のハウス2棟のエゾノキヌヤナギが幼木であったこと、また、カミキリムシの被害に遭ったハウス5棟の大幅な改植を行ったことから、山付け数も収穫繭数も例年になく少なくなりました。しかし、収穫した繭は1粒8～9gと比較的大型でありました。

昨年から新型コロナウイルスの感染が拡大していることから今年度も各種行事は中止や縮小をせざるを得ない状況ではありましたが、下村ねん糸の下村輝氏と染織家の竹内禮子氏の両名を招き「天蚕の紬研修」を行いました。また「天蚕飼育研究」を行っている大阪大学と信州大学より研究成果報告をいただきました。

当会は天蚕の採卵、飼育、繭加工、糸紬、機織まで一貫した作業活動を行っていますが、その中でも特に繭の「解紬」と「糸紬」方法について確たる要領が無く、古来より一粒手紬の技法による繰糸にて、省力化の機器に乏しく苦慮していたところでありましたが、この度の「紬研修」はその課題解決に大きく寄与したところと存じます。今後、この技術を共有研鑽し更なる活動を進めてまいります。

当会設立18周年である今年は、会員一同意を新たにさらなる発展を目指し努力したいと思っておりますので、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。（会長 菅野秀一）



令和3年11月28日 母蛾検査（中川集落センター）（7頁に詳細記事）
伝染性病原菌の有無を調べる三田村会員（左）と八島時男会員（右）

令和3年度総会 書面決議に

3月14日(土)午後1時より霊山町中川集落センターにおいて第17回総会を開催した。コロナ禍のため集会方式をとらず、参集した会員21名に書類配布し承認決議を得た。参会者には総会の記念として「美顔タオル」を配ったところ、屑繭を使用して作ったとは思えないほどの天蚕の繭らしい色合いが出ていて好評であった。このことから「紬研修会」開催の要望が多く出された。

天蚕卵の選別と袋詰め作業

総会に先立ち午前10時から13名参集し、天蚕卵7,000粒の袋詰め(約700袋)を行い、山付け作業の準備を整えた。



青いメッシュの袋に卵を10粒入れる

飼育樹の剪定作業

2月27日(土)飼育ハウスにおいて11名の会員が参加し、剪定作業を行った。昨年度よりカミキリムシによる飼育樹の食害が見られ、樹勢の低下が顕著であったことから、食害ハウス5棟の改植の必要性が急務となった。



剪定作業の河田さん、島貫さん、



斎藤義治さん、佐藤健次郎さん

防虫剤散布作業

3月20日(土)飼育ハウスにおいて4名の会員が参加し飼育樹(エゾノキヌヤナギ・クヌギ)の防虫剤の散布を行った。カミキリムシによる樹株の食害やマイマイガの幼虫による食葉の害を防止するための重要な作業である。

散布作業の菅野会長→



山付け、ネット張り作業

4月18日(日) 会員15名で山付け作業とハウスのネット張り作業を実施した。女性会員は一袋に10粒入った種を飼育樹(エゾノキヌヤナギ)に山付けした。

今年はカミキリムシによる被害が大きい5棟の全面改植を行うため9棟のみに5,000粒を山付けした。

作業状況(ネット掛け)→



(山付け) 川辺さん, 石塚さん,

柳沼さん, 大友さん, 八島さん



福島民友 4月19日



飼育樹の伐根・改植作業

4月21日(水)午前9時より菅野会長と八島事務局長がカミキリムシの食害が著しい飼育棟5棟の伐根作業を行った。バケット付きトラクターを駆使しエゾノキヌヤナギを伐根すると根幹にカミキリムシの幼虫が相当数発見され、防虫対策の重要性を強く感じたところである。

(作業中に西方の「徳ガ森」で山火事発生。幸い早期消化により1.5ヘクタール程度の焼失だったとか。)

5月2日(日)午前9時より会員9名が参加し飼育棟5棟の全面改植作業を行った。雨後の畑に足をとられながら約300本のエゾノキヌヤナギを植栽した。



就労支援事業所で繭工芸指導

6月10日(木)、17日(木)、7月1日(木)の3回にわたり福島市黒岩の一般社団法人「一穂」就労支援事業所「マリアージュ」において八島事務局長夫妻で繭工芸の指導を行った。

初日は繭を様々な花の形と葉に切る方法を指導した。二日目は天蚕繭を交えた「繭のコサージュ」を作った。最終日は「繭の花のリース」をつくった。大きさの異なるリースに三日目の日程前まで作った花を大小のリースに付けて完成すると喜びにあふれた笑顔が広がった。また、製作した作品は支援事業所対象の展示会に出品するとのことである。支援事業所生徒の作品→



下村撚糸(竹箴保存会会長)社長親子来訪

6月26日(土) 京都市の『古式竹箴守る会』会長下村輝氏親子が来訪し、天蚕の飼育観察をした。彼らは福島市平野の養蚕家鈴木美佐子氏への用件で来福されたものであるが、日本野蚕学会で柳沼前会長と同席された際、以降「エゾノキヌヤナギ」による天蚕飼育観察の機会を持たれていたとのことである。下村氏は30年程前に染織専門雑誌に「天蚕飼育の現状と天蚕糸の利活用」の論文を掲載され織物協会より褒賞された。天蚕の将来性に警鐘と展望を書かれたほど野蚕と製糸に関心を寄せられている方です。

来訪早々事務局長宅で天蚕繭の圧力釜で煮て真綿化する技法と実に簡易に紬繰糸できることを実演してもらった。その後日にはその技法を映像化したDVDをお送りいただいたことから、これを今後の当会の研修に活用したい。

下村氏は、天蚕の特徴は「繊維のダイヤモンド」と称されるように「うす緑の輝きと丈夫さ」に特徴があり、うす緑の色はやがて退色するので、最初から二大特徴を目指す簡単な方法で天蚕紬繰糸ができるので低価格を目指すことが出来るとの示唆であった。

下村氏から「切り繭の真綿化した天蚕糸」が届く

6月26日(土)に京都の「下村撚糸」代表の下村輝氏とご息子の祐樹氏が来訪された際、当会の「切り繭」「汚れ繭」「繭層の薄い繭」が沢山あると申ししたところ、「是非預らせてほしい」と1キロほど持ち帰ったものが330gほどの見事な紬糸になって届いた。

切り繭や汚れ繭(出がらし繭)がこのように立派になるのであれば「当会員に是非とも教えてください」と依頼したところである。ここに来福の際の研修会開催の確約を得たところである。

町の駅「やすまんしょ」閉店

9月末日、長きに亘り「町の駅」として親しまれてきた掛田中心街の店「やすまんしょ」は、集客率の減少、霊山町霊商スタンプ券利用の減少等により閉店となった。当会の商品も展示、販売していたが上記の通り少量であった。特に東北中央道の「道の駅-伊達の郷りょうぜん」の開店以降は売上減少が顕著であった。

保原老人会でコサージュ作り

12月15日(水)午後、保原老人会員12名が天蚕繭のコサージュづくりに挑戦した。繭の花1個作るたびに「可愛いー」と歓声を上げながら取り組んだ。最後にブローチピンを付けると「こんなに綺麗に出来るとは思わなかったー」と感想を述べ、出来上がったコサージュを早速胸元や帽子に飾って「きれい！きれい！」歓声を上げていた。

繭の収穫作業

7月11日(日)午前9時より小雨が降る中、会員13名が参加し繭収穫と塵取り作業を行った。今年山付け数が少なかったため収穫数減少は避けられないと見込まれたが全体で2,500個を収穫した。また、クヌギ、ナラ樹木ハウスは3週間遅れて山付けしたので、天蚕は営繭しておらず後日となった。二本松市の鈴木会員は夏蚕400個収穫して持参したので種用とした。

霊山で天蚕の繭4000個採集
天蚕を飼育して繭玉を使った製品作りに取り組む「りょうぜん天蚕の会」は11日、伊達市霊山町にある天蚕の飼育ハウスで繭の収穫作業を行った＝写真。15人が参加し、12棟のハウスから約4千個の繭を採集した。繭玉は乾燥させてアクセサリーなどの工芸品用や糸採集用などに選別される。会長の菅野秀一さんは「今年も糸の節きと丈夫さから『磁社のダイヤモンド』と称されているきれいな天蚕糸を収穫できて良かった」と笑顔を見せた。



福島民友 7月18日

繭収穫の斎藤慎一さん、八島事務局長



塵取り作業のみなさん

霊山町文化祭に天蚕製品展示

11月6日(土)～7日(日)霊山町体育館で恒例の霊山町文化祭が開かれ当会の作品は「協賛出品」という形で依頼され展示した。

「天蚕の繭、糸、表皮のアクセサリー、ハイブリット糸のハーフショール、普通サイズのショール、ハンドバック等」を展示し、菅野会長、八島事務局長、八島恭子会員、八島時男会員が説明に当たった。特に伊達市長の須田博行氏、衆議院議員の金子恵美氏、亀岡偉民氏に伊達市の特産品として説明する機会を得られたことは光栄であった。ただ、文化祭展示品が高齢化の波が押し寄せて年々減少している傾向が見られた。



天蚕展示品を説明する八島事務局長と八島恭子会員

県立保原高校定時制一同が「コサージづくり」

11月11日(木)午後6時から保原高校定時制生徒1年生から4年生までの全生徒40名が天蚕のコサージづくりに挑戦した。同校定時制は来年度から福島工業高校に統合されることから、最後の文化祭になるため作品展示物として「コサージ」づくりを選んだもの。文化祭にはケースに入れて展示した後、卒業式には全員胸に飾って望み、思い出のある式にしたいとのことである。



指導の友野靖子会員。製作中の生徒達の様子(上)

生徒会長から感謝の意(右上) 生徒達の作品(右)



天蚕繭と家蚕繭の「紬研修会」を実施

11月27日(土)午前9時から終日、中川集落センターにおいて、京都の「下村撚糸」代表の下村輝氏(竹箴(たけおさ)保存会会長)とご子息祐輝氏、染織者(weavers nest(ウエービズネスト))の竹内禮子氏の協力の下、天蚕・家蚕の繭紬研修会を実施した。下村氏が春に八島事務局長宅を来訪の折「多くの切り繭と汚れ繭がある」と言うので「それを真綿化し紬糸になる」と申されたので「天蚕紬研修会」の開催案が提案された。このことにより今回コロナ禍も一応収まった頃合いを見て実現したものである。

午前と午後に分散しコロナ対策を講じながら会員13名、会員以外22名の合計35名の参加を得て開催した。当初の予想を超える参加者となったが、簡易紬機『電動フライヤー』4台を駆使して紬製作に取り組んだ。小学生でも無理なく作業できることから参加者全員感心したところであり、企画初期の目的が十分達せられたことは喜ばしい限りである。



DVDにより紬の全国事例を鑑賞する参加者



八島事務局長 竹内禮子氏 下村輝氏

講師を務められた下村氏は保原の真綿も後継者不足となり、結城紬製作者の減少の中にあり、このままでは日本の伝統産業である絹織物の保存に危機感を抱いていると言う。その現況下にあって「天蚕繭」の生産、会員が手紬糸づくりから織物に至る製品化に一貫して取り組む当会の活動に大変関心を寄せられていた。簡単な方法による糸づくりが普及すれば天蚕糸・布がより安価な価格で製品を消費者にお届けできると、その普及に期待を寄せられている。

また、参加された方から、14年前に当会が主催した「全国天蚕セミナー」の再開企画をよせられたことは大きな支えとなった。
福島民友 11月30日→



紬機「電動フライヤー」により天蚕繭の紬実習(天蚕の青染試材)



真綿を伸ばし久米島式用具に掛け「フライヤー」に導く

母蛾検査を実施

11月28日(日)9時から中川集落センターにおいて会員15名が参加し母蛾検査を実施した。母蛾を「すりつぶし」伝染病原菌の有無を顕微鏡で検査するものであるが、今年の個体数は58体(昨年52)で、疑わしい検体が3体確認された。この3体は適切に破棄し健全な種を残すことにある。



末永会員(左)による粉碎作業に用いる精製水の調整



検査作業の天女の皆さん

今回、検査の様子を京都市の下村輝氏と大阪大学の東崎教授、高橋教授、吉田助教、学生の岡村さん、大原さん、信州大学の梶原教授が見学された。また、大阪大学から今年度取り組んだ飯館村の天蚕個体に含まれる放射能検査の実験研究報告をいただいた。その際、浪江町に住んでいた鈴木静子会員が所有する飼育樹木の放射能残留とそれを餌とした繭の残留放射能検査を実施いただくよう提案がなされ、早速令和4年度より計画化されることとなった。



母蛾卵粉碎を教わる大阪大の岡村さんと大原さん(指導の鈴木会員)



顕微鏡の検査に臨む大阪大の東崎教授



大阪大の吉田助教(左手前)から研究結果の報告を受ける。



天蚕繭の紬等について懇談中の皆さん

(左から下村さん、八島事務局長、梶原教授、東崎教授、高橋教授)

新会員紹介

渡辺美樹子さん
(福島市)



「きいとのもち -掛田の歴史-」改訂版を發行

当会「りょうぜん天蚕の会」の八島利幸事務局長はこの度標記「きいとのもち-掛田の歴史-」の改訂版を發行しました。当書は昭和30年(1955)に發行されたものですが、八島さんが前会長の柳沼泰衛氏から複写本を頂いていたもので「郷土の歴史と先人達の養蚕研究に尽くした偉大な足跡」を知ってもらおうと令和3年11月發行されました。幕末から近代まで養蚕業の繁栄が克明に記録されており明治期に横浜と並ぶ「日本の掛田」が読み取れます。

当書は天蚕の会員全員に贈呈されます。霊山町養蚕業の変遷を顧みましょう。



製本表紙は八島工房の和紙です。(A4版)



掛田自治協議会
りょうぜん天蚕の会 (文責)
問い合わせ先 024-2361-2305(天蚕の会事務局)
024-2361-1314(霊山中央交流館) 大友、渡辺

令和三年十一月吉日

「きいとのもち -掛田の歴史-」が發行されたのは、戦後間もない昭和三年(一九五五年)である。この本の再發行を思い立ったのは「りょうぜん天蚕の会」前会長柳沼泰衛氏(元福島県養蚕試験場場長)より複写本を頂き、この郷土史研究書を是非とも現町民にも読んで頂き、わが町の先人達のたゆまぬ養蚕研究に心を尽くした偉大な足跡を知ってもらわねばならないと強く思いました。更に、戦後間もなく、この貴重な研究書は小生が掛田小・中学校在学時の恩師達が勤務の傍ら学習指導研究に励みつつ私達を導いてきたことに新たな感慨と感謝の念を懐きました。当初、原本を忠実に書写しての再發行が基本と考えました。しかし、文中に①誤植②誤字③史実誤認(地名)④田漢字等が多く散見され、現代の人々に判読しがたいので、「福島県歴史教育者協議会」のご指導を得て、それらの箇所を改訂し補正と致しました。事実、小生のパソコンに内蔵されていない漢字が多く、「天字源」片手の書写・作字に時間を要しました。但し、本文に取りあげられた資料等の漢字は忠実に原本通りの田漢字を用いるよう心がけました。全頁の複写(コピー)が容易な製本ですが、物質不足の粗悪な洋紙(ラバン紙)に印刷された製本(複製表紙等に添付された写真参照)の為、本文中に取り入れられた多くの写真・図版が黒く変色し判読困難な状態は黒広報誌「ふくしまグラフ」(二〇〇九春)「グラフアップ」(二〇一〇五春)「ひらく」(二〇一〇七春)各号に掲載図版から了承を受けて取り入れ、判読不明図版は省略しました。また、表紙と裏表紙等は発行当時の姿を伝える時代感、編者の意図を汲み取る為に複写して製本としました。改めて複製本場「きいとのもち」に取りあげられた素晴らしい先人達の努力を想ひ、専ら研究をされた方々に感謝し、全町民が関わる「掛田自治協議会」と養蚕の技術継承に努める「りょうぜん天蚕の会」が共同改訂版として発行した次第です。町内に養蚕史跡が尚数多く残っているため、これらも伝えられるようにしたいものです。読後、読者の皆様からご指摘やご教示を頂ければ幸であります。

改訂版を發行するにあたり

「蚕業があったから」

「だて市政だより」11月号に「日本の近代化を支えた伊達の蚕種製造、養蚕、製糸業」として巻頭から9頁の特集が組まれました。

400年ほど前に本格化した蚕業が伊達市全体に広がり、蚕業のまちとして栄えた時代から紐解かれています。江戸幕府から「蚕種本場」を名乗ることを許されてから昭和までの繭の歴史、養蚕技術の研究など解りやすく解説されています。

「養蚕用具から見える暮らし」の頁では泉原養蚕展示室で重要文化財の指定に関わり、保存に努めている当会会員の丹治純子さんが紹介されています。



田原山原の繭原用具をガラスケースで展示する。これをきっかけに保存に努めてきた。伊達市立博物館は歴史文化資料館に指定。平成24年から有難き養蚕研究家で重要文化財の指定に関わり、保存に努めている。



「だて市政だより」11月号

会員の活動スナップ



剪定作業



改植の肥料散布



ハウスネット掛け



繭の収穫作業



収穫後の塵取り、収量確認作業



天蚕繭の工芸指導



天蚕繭の紬研修



天産卵の袋詰め作業



会計監査



来訪者に飼育状況の説明



霊山町文化祭で当会活動と製品紹介



顕微鏡による病原菌検査



母蛾検査 供試体の添液作業と母蛾卵粉碎

トピックス

- 読者が選ぶ県内十大ニュース
- 1 全国新酒造評会17銘柄金賞で8連覇
 - 2 最大震度6強の本県沖地震
 - 3 Jヴィレッジから聖火リレースタート
 - 4 東京五輪、あづまでソフト
 - 5 震災と原発事故から10年
 - 6 あづまで初戦の侍ジャパン「金」
 - 7 2年後に海洋放出正式決定
 - 8 県全域に「非常事態宣言」いわきにまん延防止
 - 9 県内最多230人感染
 - 10 衆院選県内3選挙区で立民勝利 12年ぶりに自民上回る

令和3年12月15日 福島民友

- 2021年 十大ニュース 国内
- 1 東京五輪・パラリンピック 無観客開催
 - 2 新型コロナで度重なる緊急事態宣言
 - 3 菅首相退陣、岸田政権誕生
 - 4 新型コロナ「第ら波」で医療崩壊
 - 5 衆院選で自民絶対安定多数
 - 6 東日本大震災10年
 - 7 眞子さん、小室圭さんと結婚
 - 8 記録的大雨で土砂災害、熱海土石流
 - 9 新型コロナワクチン接種率7割超
 - 10 藤井聡太さんが竜王位獲得で最年少四冠
- 次点 小田急線、京王線で相次ぐ列車事件
番外 大阪ビル火災25人死亡、放火疑い

令和3年12月31日 福島民友

- 2021年 十大ニュース 国際
- 1 バイデン米政権発足
 - 2 アフガン米軍撤退、タリバン政権に
 - 3 大谷「二刀流」で大活躍、満塁でMVP初選出
 - 4 世界の新型コロナ死者が500万人超
 - 5 ミャンマーで軍事クーデター
 - 6 香港リンゴ日報廃刊、民主派弾圧
 - 7 トランプ支持者が国会襲撃、一時占拠
 - 8 中国共産党が歴史決議、習氏が歴史的指導者へ
 - 9 松山英樹がマスターズ優勝、日本男子初
 - 10 G7首脳声明に台湾明記、米中対立激化
- 次点 G20「今世紀半ば」に温室効果ガス実質ゼロ

人モノ サービス、つながり強く 東京五輪開幕

相馬福島道路 全線開通



令和3年4月24日 福島民友 (伊達中央IC付近)

コロナ下 希望の聖火



令和3年7月24日 福島民友 令和3年8月19日 福島民友

日本金27個、3位躍進

コロナ下 選手熱戦

27 14 17

女子1000

高木美

眞子さま 26日結婚

小室さんと米国へ

宮内庁正式発表、婚約内定から4年

眞子さま結婚の経緯

令和3年10月1日 福島民友 号外

伊達・須田氏

伊達 新人小林氏に大差

伊達市長選開票結果

当 16,743 須田 博行 自民 無敵
9,737 小林 春彦 無所属

令和4年1月31日 福島民友

自民新総裁 岸田氏

決選 河野氏に、あすにも党役員

幹事長に菅前氏 衆生田氏浮上

令和3年9月30日 福島民友

熱海土石流 20人不明

2人死亡、10人

警防の被害家屋直撃

令和3年7月4日 福島民友

北京五輪 開幕

高木美「金」

コロナ下、祭典

1大会最多メダル1個

女子1000

令和4年2月18日 福島民友

若隆景 (福島出身) 新関脇

若隆景 (福島出身) 新関脇

令和4年3月1日 福島民報

県産日本酒8連覇

金賞17銘柄、日本

連続記録は史上最高

令和3年5月22日 福島民友

ロシアがウクライナ侵攻

首都の軍施設空

死亡40人 南北から地上

令和4年2月25日 福島民報